



難聴学級の新設に真摯に向き合うことで学んだこと

～これからを生きる子供達の幸せを心から願って～

揖斐郡小中学校長会長 澤田 辰男

令和6年4月1日、大野町立南小学校に、難聴学級『やまびこ学級』がスタートしました。揖斐郡で初めて難聴学級が設置されることになり、うれしい反面、2月になっても、何をどのように進めていけばよいか何も分かりませんでした。

正直、すべてのことが手探りでした。難聴学級の二人の児童のためにはと思いながらも、何から始めればよいか経験値がないため分かりません。希望の光は、既に設置されている、大垣市立安井小学校でした。そこで、何度も授業参観をさせていただきました。担任の先生からは、これまでの学級通信や学習掲示等を紹介していただき、とても参考になりました。その後、南小学校の教室の工事や学級の名称等を保護者と合意を図りながら、一つずつ決めていくことができました。

それから一年間を終えようとする、この2月末、南小学校では、『感謝の会・6年生を送る会』を開催しました。本校の学校運営協議会や保護者の皆様にも参観していただきました。

学校運営協議会のある委員の方からは、

- ・全校合唱等に手話が取り入れてあることがすばらしい
 - ・手話の先生が、難聴学級の二人の児童であることがすばらしい
 - ・全校ぐるみでインクルーシブ教育を推進し、相手の立場に立った言動が、児童の明るく元気で落ち着いた表情につながっている
- などのメッセージをいただきました。

本校が、難聴学級を新設したこの一年間の歩みは、まだまだ途上で、誠に稚拙ではありますが、私自身、学ぶことは実にたくさんありました。

○相手の立場に立った言動、特に耳に障がいをもった児童のために、はっきり大きな声で話すこと

を中核として、すべての教育活動を、表現力に焦点を当てて見直しました。それにより、学校の教育目標の具現につながる児童の成長が見られました。つまり、難聴学級の二人の児童を大切にすることにより、すべての教育活動を見直すことができ、全校児童の教育活動の改善を図ることができたのです。

私達は、目の前の児童生徒を大切にしているでしょうか。

私達は、目の前の児童生徒の声を、心を聴いているでしょうか。

私達は、目の前の児童生徒の幸せを願い、教育活動を改善しているでしょうか。

この一年間、耳に障がいがあり、音声伝わりにくいという、表面的には把握しにくい特別支援教育と向き合うことは、私自身、頭を鉋で殴られたくらいの驚きでした。しかし、その児童たちと真摯に向き合うことにより、衝撃的で、急激な全校児童の成長につながったことは確かです。

6年生は、修学旅行先で、いつの間にか、外国人と英会話を楽しんでいました。学校での対話活動の充実、表現活動の見直しや位置付けが、最近では、児童の主體的・対話的で深い学びにつながっています。

最近の教育界では、難しい単語や片仮名が並んでいます。しかし、いつの時代でも、目の前の児童生徒に軸足を置き、児童生徒の幸せを願い、教育活動を推進することで、指導改善のヒントは見つかるものです。

本校の『感謝の会・6年生を送る会』が終わり、6年生が退場する際、難聴学級の二人の児童をはじめ、一人一人の、さわやかで清々しい笑顔を、きっと私は忘れることはないでしょう。

第 36 回揖斐郡・図工美術作品展、第 20 回ふれあい作品展

今年度は、1月25日(土)～28日(火)池田中央公民館にて催しました。郡内から、図美展には472点、ふれあい作品展には275点の出展がありました。

なお、開催期間中には本人・家族・親戚を含め、1729名の来場者があり、出品作品に対して感動の声も多く聞かれました。

		出展	最優秀	優秀	入選
小学校	平面	190	6	14	170
	立体	112	6	9	97
	合計	302	12	23	267
中学校	平面	105	3	8	94
	立体	65	3	4	58
	合計	170	6	12	152
総計		472	18	35	419

	平 面			立 体		
	学校名	学年	氏 名	学校名	学年	氏 名
小 学 校	清水小学校	一年	鳥居 彩生	南小学校	一年	柴田 煌大
	八幡小学校	二年	橋本 晴斗	南小学校	二年	青木仁多朗
	西小学校	三年	三浦 果歩	清水小学校	三年	林 柚希
	温知小学校	四年	中野 聡祐	温知小学校	四年	井口 眺雅
	小島小学校	五年	四宮舞以子	小島小学校	五年	細野 晴斗
	八幡小学校	六年	矢野ひまり	中小学校	六年	鳥本 涼楓
中 学 校	池田中学校	一年	若山 幸大	大野中学校	一年	成瀬 桃花
	揖斐川中学校	二年	長峯さくら	大野中学校	二年	児島 琉希
	大野中学校	三年	馬淵 愛理	揖東中学校	三年	鈴村 真央

< 揖斐郡図工・美術作品展最優秀賞 >

【指導・講評】

	小学校低学年	小学校高学年	中学生
平面	パスを重ね合わせたり、こすったりする技法が丁寧に施されている。また、スタンピングや色の濃淡を工夫し、色がきれいに混ざり、明るさも丁寧に表現されている。 テーマの感動が強く伝わってくる、具体的な表現になっている。 人物画では、テーマに沿って主題が明確で動きが的確に表現できている。 色の濃淡を絵の具の特性と水の活用によって表現することができている。	様々な技法を取り入れた作品が多く、見応えがある。 人物の部分にあった刃を選び、掘り進めている。 版画の彫り方が単調な作品がある。彫刻刀の種類からイメージに合う刃を選び、彫り方や深さを変えていくとよい。 風景画は、遠近法や物の形取りがしっかりしている。 筆の方向など、塗り跡やグラデーションを意識して制作するとよい。	個人の思いや意志が明暗の変化などで表れている。 構想図は羅列的に描きがちだが、心のうちを表せるように、奥行きや大きさ、空間などを工夫している。また、色の対比もよい。 写実的になりそうな作品を、風景・山・川をうまく表すことで、印象派を思わせるような抽象的な表現にしている。 色の組み合わせ・補色などを考えて構成するとよい。
立体	紙を切る、折る、曲げるなど、紙を上手く加工して表現したい形を作ることができている。 空き容器の形を生かし、違和感なく組み合わせながら、調和のとれた色付けができている。 制作段階で付けた印や名前が残っていたり、材料の繋ぎ合わせが丁寧にできていなかったりする個所も見られた。 素材の魅力を損ねない製作をすることができるとよい。	個の思いがあふれる作品が多い。自分のイメージに合った木や植物を選んで制作している。 ワイヤーアートは、様々な技法(巻き方やひねり方など)を用いて仕上げられている。 動きのある立体作品が多い。 キットを用いた作品は、こぢんまりとした印象を与えてしまう。 人物の骨組みや肉付き、手足の長さなどを追究してから制作するとよい。	柿のへたの部分の薄さや形が真に迫っている作品があつてよい。 同じものでも色の変化をつけることで美しくリズムのある絵になっている。 レリーフの基礎をあえて外すことで、色と構図のデザインに新たなアイデアを生み出している。 レリーフの高さに段階をつけ、際やバックをさらに深く彫ったり、面に傾きをつけたりするとよい。 バックをさらに掘り下げたい。

令和 6 年度教育相談事業でこんなことに取り組みました！

令和 6 年度、当センターでは、次のような教育相談事業を行いました。

- 目 的 不登校の児童生徒の社会的自立および学校復帰に向けて、個に応じた適応指導・相談活動を行う。
- 基本的な立場
 - ・ 個に応じて支援ができるよう実態把握に努める。
 - ・ 人間関係形成能力を養い、自己肯定感を高める指導援助に努める。
 - ・ 家庭、学校、関係機関との連携を密にする。
- 対 象 者 郡内の小中学生とその家族、教職員
- 事業内容
 - ・ 教育相談…本人・保護者・先生との相談（来所、電話等）
 - ・ 適応指導…ほほえみ教室
 - ・ 教育相談研修会
 - ・ 各校への訪問相談
 - ・ 主幹教諭との連携会議
 - ・ 臨床心理士との個別懇談
 - ・ 関連図書の貸し出し

【ほほえみ教室】の活動

不登校の児童生徒の社会的自立および学校復帰を目指して、指導員 3 名（午前午後で交代し、常時 2 名体制）で下記のような日程で指導しています。

《基本的な 1 日の流れ（例）》

9:00～	計画・個人活動
10:00～	学習①
11:00～	学習②
12:00～	昼 食
13:00～	掃 除
13:15～	運 動
14:00～	学習③
14:50～	反省・片付け

基本的には、その日の活動内容を自己決定させた上でそれぞれの活動を行っています。また、学習活動においては、児童生徒の所属する学年の教育課程を踏まえ、加えて本人の実態およびペースにあわせて学習を進めるようにしました。月末には、学習した内容を学校に報告し、その後どのような学習に取り組んでいくかを相談しながら、指導計画を立てています。

当教室の性質上、同年齢・異年齢の集団の中でもまれながら交流範囲を広げ、周囲との関わり方を学んでいくという機会がどうしても少なくなりがちです。そこで、自分をコントロールする力や、相手の

立場でものごとを考えたり共感したりする力をつけるために、自分の中にある様々な感情に気付かせ、人に気持ちを伝えることができるようにしています。そうすることで「自己選択」する力をつけ、学習に取り組む姿勢づくりを形成していきます。将来、学校復帰した際は、一番に関わりがあるのは学習活動であると考えています。それがスムーズにできるようになれば、その後の活動も安心して参加できるようになることが期待できます。

【教育相談】の活動

「ほほえみ教室」では、この 4 年間「愛着障害」「学習障害」「感情コントロール」の三つの言葉をキーワードにしながら在籍児童生徒及び保護者への支援活動を行ってきました。

本人や保護者、そして学校から話を聞いたりして、要因や背景等をさぐり、そのうえで、支援の見通しを立て、支援活動を仕組んでいます。場合によっては、専門機関の助言もいただきながら、自己選択することから自己肯定感の回復につながるようにしています。

また、保護者の願いとして「学力の定着」から将来への進路選択をスムーズにしたいということがあります。学校復帰し、自らの進路を切り開いていく上で避けては通れない道です。従って、本人や保護者の思いを確かめながら、学習活動に重点を置きつつ、それを確実にできるための感情コントロールに特化しているのが当教室の現状です。児童生徒そして保護者への支援という二つの側面から、支援活動を充実させていきたいと考えています。

令和6年度 郡教育研究実践論文事業

揖斐郡教育会では、

- ① 教育の基本的な課題を踏まえた確かな教育理論のもと、小中学校の教育現場に密着した継続的・累積的な児童生徒の成長や指導の充実を図った実践を研究論文としてまとめることで自らの教職員の専門性や指導力を高める。
- ② 作成された実践論文に揖斐郡内の教職員が学び合うことで、揖斐郡教育の充実を図る。

の願いのもと郡教育研究実践論文事業を行い、29点の実践論文の応募がありました。

教科	小学校	中学校	計	教科	小学校	中学校	計
国語	6	1	7	道徳	2	0	2
社会	1	1	2	特別活動	1	1	2
算数・数学	2	1	3	総合的な学習	0	1	1
理科	2	0	2	特別支援	1	0	1
音楽	1	1	2	健康安全	1	0	1
保健体育	2	1	3	学校経営	0	1	1
技術・家庭	0	1	1				
外国語	0	1	1	合計	19	10	29

郡教育研究実践論文に取り組む意義について、審査委員長講評の中では次のご指導をしていただきました。下記の視点を大切に郡教育研究実践論文の更なる充実を図っていききたいと思います。

【実践論文に取り組む意義】

揖斐郡教育会の会員のみなさんは、日常の教科等の授業、職員指導や人材育成、さらには学校経営や管理等において、様々な工夫・改善を図りながらたいへん熱心に取り組んでくださっています。しかし、とすると、教育実践や学校管理運営においては、「実践ありき」という感じになりがちです。その点で、「今日的な教育課題」や「教育理論」、さらには「児童生徒や職員、学校の実態」等を踏まえながらちょっと立ち止まってみると、「新たな課題」や「視点」が浮き彫りになってくるのではないのでしょうか。それらに挑み、文章でまとめる＝執筆（アウトプット）することは、自身の考えや論理が整理され、指導・支援・職務の遂行をするうえで、大きな力となって発揮されると思います。そして、自分自身の授業力や指導力を向上させることが、児童生徒の力を高めることにもつながっていくと考えます。ぜひ、来年度、積極的に研究実践論文に挑戦してみてください。

※詳細は令和6年度郡教育実践論文集および郡教育研修センターHPの郡教育実践論文ライブラリーをご覧ください。

令和6年度 郡教育会研修総会

令和7年1月23日に郡教育会研修総会を実施しました。

令和6年度郡教育研究実践論文の審査の結果、優秀賞4点、入選6点、佳作19点の先生方を表彰するとともに、また、実践論文審査会でいただいたコメント（実践論文のよさ・更によくするための視点）を執筆者の先生方にフィードバックし、今後の実践に生かしていただくようにしました。

令和6年度の郡教育会研修総会では、優秀賞の大野町立東小学校の杉山貴紀先生にプレゼン発表を、同校の江崎綾香先生・揖斐川中学校の秋江諒摩先生・松浦亮太先生にシンポジウム発表をしていただきました。

論文の概要及び郡教育会研修総会のまとめは、『デジタル版 令和6年度揖斐郡教育研究実践論文集』として揖斐郡教育研修センターホームページに掲載しています。



郡教育研修総会アンケートより

- 課題が児童にとって必然性のあるものという点は、どの教科でも大切だと思っています。それと単元のねらいや言語活動とを繋いで、実践されているところが参考になります。さらに児童の思考の流れをより具体的に考えることで、実際の指導に活かすことができます。毎時間の児童の姿（出口）をより具体的にイメージしきすることで、指導もより具体的にできます。指導と評価の一体化が図られていること、自分の教科でもできると思います。
- 児童生徒がより力を付けるための取り組み、また学校の力を高めていく具体的な取り組みが分かりました。今後は、教材研究、児童の把握、メディアの活用、学校全体で協力して行っていくことを大切にしていきたいです。
- 「対話活動におけるグループ化の工夫」「目的を明確にしたツールとしてのICT機器の活用（児童生徒の興味関心の高まりにつながる場合があること）」「校内で教職員が互いに学びあえる環境の重要性や研修の身近化」が素晴らしいと思いました。
- ICTには多様な活用があり、効果的に使用することで、授業だけでなく先生方の資質向上にもつながることが分かり、論文を読んでみたいと思いました。
- 揖斐郡の先生方が、子ども達をよくしたいと実践したことが論文として見ることでできるので、それを共有していくことで一緒に揖斐郡の教育をよくしていくために自分も頑張りたいと思いました。

令和 6 年度 郡教育研究員派遣事業

令和 6 年度は 27 名の先生方に郡教育研究員としてご指導いただきました。郡教育研究員派遣事業

揖斐郡内の教職員の人材育成をめざす。

揖斐郡の教育活動の充実、揖斐郡の教職員の指導力の向上をめざす。

ことを目的とし、教育研究員の先生方には

- ① 要請に応じて全校研究会・部研等の研究会等に参加し、自らの実践に基づいて意見を述べたり、指導助言を行うとともに、自らの資質や指導力の向上にも努める。
- ② 各校の研修会や実技研に参加し、研修会での指導や実技研修の指導を行う。
- ③ 若手教諭の指導を行ったり、自分の実践をもとに授業づくりや各領域の指導のアドバイスをを行う。等の活動でご尽力をいただきました。教育研究員の派遣事業を通して次のような成果がありました。
- 自分自身の教材研究にはない授業者の先生の手立てや授業展開を学ぶことができました。また児童に力をつけるために学校として挑戦してみえる姿勢にも刺激を受けました。若手の先生には、困り感に対する具体的な提案ができたと思います。
- 研究会に向かうにあたり、私自身も今一度指導要領を読み込んだり資料を整理したりして、教科の本質を理解しようと準備しました。結果として自身の学びに繋がりました。

令和 6 年度 郡三師会と養護教諭との交流会

令和 7 年 2 月 12 日（水）に池田中央公民館において令和 6 年度の「郡三師会と養護教諭との交流会」を実施しました。講演では講師に岐阜県教育委員会体育健康課 阪野きよみ先生より「これからの養護教諭に求められるもの」の演題で講演をしていただきました。

講演の内容は次のとおりです。

- 多様化する健康課題（メンタルヘルス、アレルギー疾患、生活習慣、性、感染症など）に向き合う養護教諭に求められるもの、大切にべきこと
「健康をはぐくむ」こと 「命を守る」こと

<健康をはぐくむ>

- 保健室登校、登校しぶり、教室に入れない児童生徒への対応について
- 効果的な実践方法・主体性を引き出す指導方法について
- 健康を育むために大切にしたいこと

<命を守る>

- アレルギーに対する望ましい対応、重大事案が起きないための養護教諭としての危機管理や重大事案への対応、救急搬送の辞令について
岐阜県教育委員会学校安全課『岐阜県版 SOS の出し方に対する教育のガイドブック』日本学校保健会『学校のアレルギー疾患に対する取組ガイドライン』（R2. 3）『学校給食における食物アレルギー対応指針』（文科省 H27. 3）を参考に指導する。
- 命を守るために、
危機管理意識を高く 担架・AED の設置、養護教諭としての役割の自覚（救急搬送や緊急時の対応）、以前にも同じことがなかったかの確認
命を守るために大切にしたいこと 危機管理のさしすせそ

さ＝最悪を想定して し＝慎重に セ＝誠意をもって す＝素早く そ＝組織で

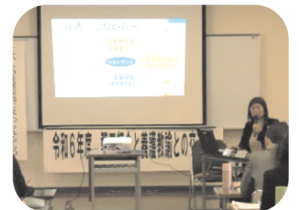
Society5.0 の社会で養護教諭にしかできないことを考える。

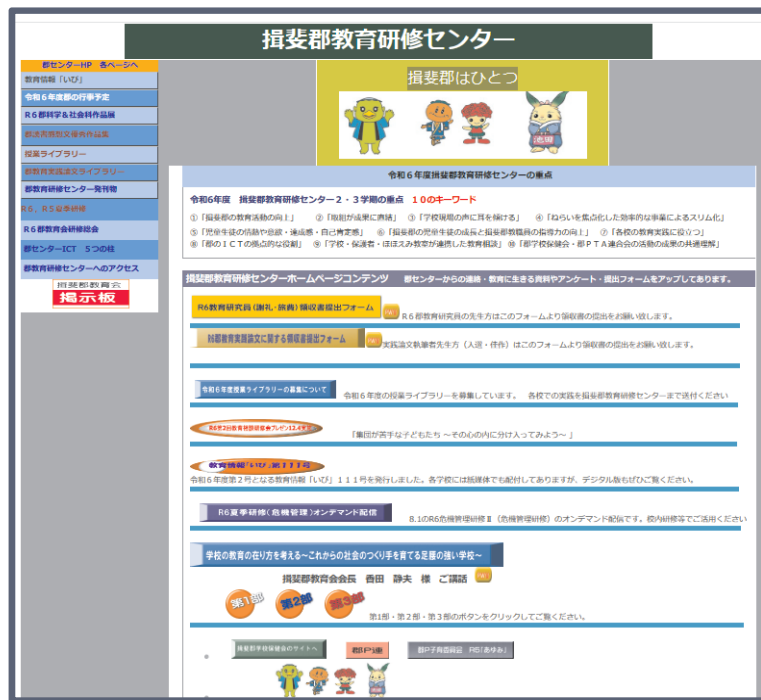
養護教諭の質問に対しては、郡の医師会の先生より「手足口病」、「肥満傾向の児童への保健指導（全体・個別）や保護者への指導」「アレルギー症状の児童について、管理表作成の基準」「原因の分からない腹痛を訴える児童への対応」、「アデノウイルスの症状」「医療機関の受診を促しても眼科を受診しない子への対応」「左右差が大きくなる原因としてのスマートホンやタブレットの使用等との関係」「小学生のヘアカラー」「適度なダイエットについて児童や家族への対応について」ご指導をいただきました。

また郡歯科医師会の先生からは「歯列・咬合の状態が気になる児童や一人で複数本う歯がある児童への学校での指導」「歯科指導に関する保護者との連携の仕方」について、郡薬剤師会の先生からは「学校環境衛生検査での学校薬剤師の具体的指導内容」「揖斐郡でも取り入れた方がよい児童自身の手による学校環境づくりの優れた実践例」についてご指導いただきました。

<養護教諭の先生の感想から>

- ☆ 講演の中での「養護教諭は、担任と違って 1 年限りではなく卒業まで見届けられるのが強み」という言葉が印象的でした。その強みを活かして経年的に指導していくのも大事なことだと感じました。実践を通して検証をすることで経年的な変化の見届けにもつながると感じたので、卒業までの児童、生涯を通して健やかに成長する子どもたちを見据えて指導の実践をしていきたいと思っています。
- ☆ 専門的なお立場からご指導いただき、日々安心して仕事をすることが出来ます。ご指導いただいたことを保護者や校内職員に広めていきたいと思っています。





揖斐郡教育研修センターではホームページを刷新しました。またホームページを随時更新し、揖斐郡教育会事業の充実を図るために活用しています。

ホームページには

- 教育情報「いび」
- 令和6年度郡の行事予定
- 児童文化事業（各作品展）
- 読書感想文優秀作品集
- 授業ライブラリー
- 郡教育研究実践論文ライブラリー
- 夏季研修
- 郡教育会総会

等のコンテンツを掲載するとともに、郡教育研修センターの「10のキーワード」や「郡センターICT 5つの柱」を明記し、郡センターの活動を郡内の教育関係者に理解していただくようにしています。

また、郡教育会会長の「学校の教育のあり方を考える～これからの社会の作り手を育てる足腰の強い学校～」についての講演の動画や夏休みに行った危機管理研修の動画、ほほえみ教室

主催の教育相談研修会のプレゼン資料をアップし、郡内の教職員が日常の実践で活用できるようにしています。

ホームページ内には各種研修のアンケートフォームや提出フォームを設けて郡内の先生方の仕事のスリム化を図るとともに、「揖斐郡はひとつ」の願いのもと郡内の先生方が日常的に他の先生方とコミュニケーションが取れるように教育会掲示板を設置しています。

ぜひ、郡教育研修センターホームページをご活用ください。

学校保健教育に関しては、「揖斐郡学校保健会ホームページ」を設け、郡学校保健研修総会、郡三師会と養護教諭との交流会、歯の健康優良児表彰事業、郡学校環境衛生調査等、揖斐郡学校保健会が大切に行っている「郡三師会と学校が連携した郡学校保健教育の充実」への働きかけを行っています。揖斐郡教育研修センターのホームページに郡学校保健会のホームページへのリンクが貼ってありますので、併せてご覧ください。

令和7年度の揖斐郡教育研修センターの取組の重点

令和6年度には揖斐郡教育会、揖斐郡教育研修センターの活動に多大なご尽力をいただきありがとうございました。令和7年度は令和6年度の成果の上になって次の願いのもと活動を行っていきます。令和7年度もよろしくお願い致します。

令和7年度揖斐郡教育研修センターのキーワード

- 揖斐郡の教職員・児童生徒・教育関係者から必要とされる郡センター経営と事業推進
- 「揖斐郡はひとつ（ねらいが明確な事業）」→揖斐郡の児童・生徒の成長と充実感
- 「教職員にとって多様で有効な研修の場」「郡内の教職員が必要とする教育情報」の提供→揖斐郡教職員の資質及び指導力の向上
- 郡センターが主体となる「ICTの活用」による揖斐郡教育の充実や教職員のスリム化への貢献

令和7年度揖斐郡教育研修センター運営方針と願い

1. 「開かれた研修センター」として、「教職員にとって多様で有効な研修の場」を設けるとともに、「郡内の教職員が必要とする教育情報」を提供できるよう、揖斐郡小中学校校長会や各町の教育委員会と連携して、郡センターの機能を発揮していく。
(揖斐郡の教職員・児童生徒・保護者から必要とされ、信頼される郡センター経営と事業推進)
2. 一人一人の児童生徒の個性の伸長や自己肯定感がもつことをめざした児童生徒文化事業を工夫して行うとともに、優れた取組や成果を郡内の各学校が共有できるよう働きかける。
(「揖斐郡はひとつ」との思いを強くもち、揖斐郡の児童・生徒の成長につながることに焦点化して事業を充実させる)
3. ほほえみ教室を核にして、郡小中学校校長会や各校の教育相談カウンセラーと連携し、健康安全や教育相談活動等の充実を図り、気軽に利用できる学校教育・社会教育の窓口となるよう努める。
4. TEAMSによるオンライン会議やグーグルフォーム、郡センターHPを郡内の教育活動の充実や郡内教職員の事務のスリム化につなげるなど揖斐郡におけるICT活用推進の中心的な存在としての機能を高める。(学校の教育活動への貢献)